

目指せ！カーボンニュートラル 省燃費機材のチカラ

CO₂排出量削減 その三つの柱

JALグループでは、2050年までのカーボンニュートラル実現に向けて、CO₂排出量の削減とカーボンオフセット制度の普及に努めています。現代の技術で飛行機を飛ばす際には、どうしてもCO₂を排出してしまいうため、これをできる限り削減するべく、「省燃費機材への更新」「運航の工夫」「SAF (Sustainable Aviation Fuel = 持続可能な航空燃料) の活用」という三つの分野で、JALグループは対策を進めています。今回は、この省燃費機材に関する取り組みについてお話ししましょう。

JALグループが保有する機材は現在224機。このうち、実に86%が省燃費機材に

該当するのをご存じでしょうか？ 具体的には、導入が急ピッチで進んでいるエアバス社のA350型機、ボーイング社のボーイング787型機、そしてATR社のプロペラ機が挙げられます。これらは機材そのものの軽量化などによる燃費性能の向上によって、従来の航空機と比べ使用する燃料の量が抑えられているのです。

導入が進む 省燃費機材

機材の更新には多くの資金が必要ですが、JALグループは最新鋭の省燃費機材への更新を脱炭素社会に向けた優先事項として考え、計画的な資金調達の下に導入を加速しています。これにより、CO₂排出量を2025年に37万t、2030年に120万t削減

2050年カーボン
ニュートラル実現に向けた
CO₂削減への寄与率



する試算です。ちなみに、2030年に日々の運航の工夫で10万t、SAFの活用で70万tの削減目標としていることから、省燃費機材がCO₂排出量の削減に大きく寄与することがわかりいただけると思います。

なお、航空機メーカーの技術革新によって生まれたこれらの機材の燃費をさらに向上させるため、JALグループ側の取り組みとして、エンジン泡洗浄や、機体表面の塗膜へのリプレット施工などの工夫も行っています。

この冬、JAL国際線の羽田—ニューヨーク線にエアバスA350-1000型機が就航します。新型機材の導入は4年ぶり。従来の機材と比べてCO₂排出量を約15〜25%（飛行距離による）も削減できるといふ、待望の省燃費機材の登場です。今後も順次導入数を増やし、CO₂排出量削減の柱としていきます。

JALグループはこれからも、脱炭素社会の実現を目指し、CO₂排出量削減のさまざまな取り組みに邁進してまいります。

今回のテーマに該当する目標



1. 国内線に就航しているエアバスA350-900型機。2. リプレットを航空機の塗膜表面に施工して流体の抵抗を低減させることにより、燃費が最大2%程度改善し、CO₂排出量削減に寄与。3. 特殊な泡状の洗浄剤をエンジン内部に注入、ちりやほこりを除去し、燃料を年間最大約82,000ℓ削減。これはCO₂排出量約285tに相当。

エンジン泡洗浄



リプレット施工



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。